

暗闇の中できらめく金糸

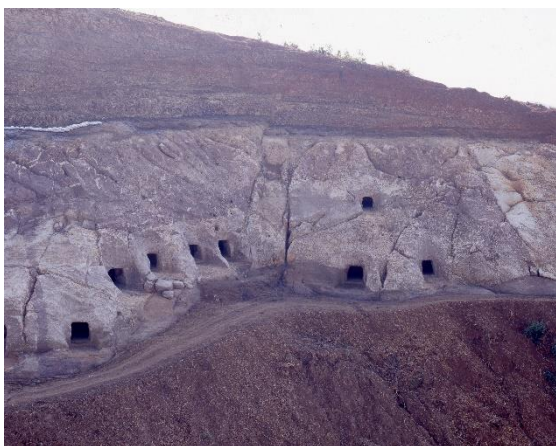
上塩冶横穴墓群（出雲市上塩冶町） 調査年：1995（平成7）年

守岡正司

今から四半世紀以上前の暑い夏、斐伊川放水路建設予定地内の発掘調査担当者だった私は、神戸川を見下ろす丘陵斜面に張り付きながら、この地域に数多くある“横穴墓”と呼ばれるお墓の調査を行っていました。出雲市街地の南側の丘陵には、斜面から穴を掘った横穴墓が230穴以上あり、島根県で最も多く存在します。そこに新たに斐伊川の放水路を作ることになり、1992（平成4）年から調査が始まりました。

私は1995年の4月から12月まで30穴近くの横穴墓を調査しました。横穴墓の奥行きはおよそ1.5mから2.5m、中は暗くて狭い、高さもおよそ1.4mと低いことから作業は中腰で行わなければいけません。今でも横穴墓を見ると、腰は痛くなり、いつも頭を護っているヘルメットが壁に当たっていた記憶がよみがえります。

そんな過酷な調査でしたが、掘る度に、新たな出土品がありました。特に金色に輝く金糸には注意を払いました。第22支群の場所は以前の調査で、金糸が発見された第21支群の丘陵の反対側にありました。また出るかもしれないと、掘り始めた段階から、穴から出てくる土砂はすべてふるいふるいにかけました。土の塊が壊れず、金糸は大変小さいので、探したくても探せない状況でし



金糸が副葬された横穴墓群



見つかった金糸

た。そこで、水を使うことにしました。現地に水洗い場を作り、^{ふるい}篩の中で水を使って土を溶かしながら1穴ずつ探しました。不思議ですが、水洗い場で発見できると、横穴墓の中でも見つけることができました。暗い横穴墓のなかで光を当てると輝いていました。

金糸は全国でも10数の遺跡からしか発見されていない貴重なものです。らせん状に巻かれています。何に使用されたか詳しいことはわかっていません。千葉県金鈴塚古墳からは、金を薄くのばしたものを裁断し、芯糸に巻き付けているものが発見されています。織物に金糸を用いて文様を刺繍などにより表していたと考えられています。

金糸を使った織物の伝世品が法隆寺や正倉院にあります。このような貴重なものがどのようにして出雲の地にもたらされたのか謎が深まります。

(島根県立古代出雲歴史博物館 交流普及スタッフ調整監)